

陳 述 書

2019年7月12日

佐賀地方裁判所御中

住所 鹿児島県鹿児島市
氏名 井ノ上利恵

本日は、意見陳述の機会をいただき、ありがとうございます。

(1)

私は、鹿児島市で薬剤師として薬局に勤務しています。

2011年3月東日本大震災が発生した時、東京都北区に住んでいました。今まで経験したことがない大きな揺れが長い間続き、勤務していた薬局では棚から落ちた物が散乱し、交通はマヒし、暗い夜道を不安な気持ちで歩いて帰宅しました。帰宅後テレビから流れる信じられないほどの巨大な津波の映像にただ驚くばかりで、その時は原発の事など頭に浮かびませんでした。

翌日起きてしまった原発事故。「日本は終わった」と思いました。ウソであって欲しい。そう何度も思いました。

息子が生まれた年に起きたチェルノブイリ原発事故では、小児甲状腺ガンの激増など大きな健康被害を引き起こしましたが、その放射能は国境を越え、海を越え8000km離れた日本にもやってきました。あの時原発事故の恐ろしさを知ったはずなのに、なぜ日本の原発を止める為に私は何もしなかったのだろう。心のどこかに「日本は大丈夫」、そんな気持ちがあったのだと思います。

自分が暮らしている東京の電力を作っていた福島原発が事故を起こしてしまった。本当にショックでした。

事故の2ヶ月後から下痢が続くなど体調を崩し、6月下旬実家のある鹿児島に帰りました。鹿児島に帰ると下痢は治まりみるみる体調は良くなり、やはり東京にも飛散してきた放射性物質が影響したのではないかと思いました。

(2)

あれほどの事故が起きたのだから、この国の原発が二度と稼働することはないだろうと思っていました。

ところが、鹿児島にある川内原発が事故後最初の再稼働の候補に？ 福島から一番遠い原発、県民の関心が低いと思われたのでしょうか。反対運動を懸命にやりました。夜中まで続いた県議会の傍聴に行き、原子力規制委・九電・県が開催した住民説明会には3ヶ所行きました。

しかし、再稼働を決めるのは、薩摩川内市長と市議会、県知事と県議会です。川内原発を再稼働させてしまえば、なし崩しに各地で再稼働が始まる。再稼働を止めたい一心で、運転差止めを求めた仮処分申し立ての原告となりました。

鹿児島地裁の審尋で、九電側は「再稼働が遅れば一日当たり約5億5千万円の損害を被る」と賠償に備えた担保金の積み立てを私たち住民側に求めました。地裁は命じることはありませんでしたが、仮処分申請は却下されました。

福岡高裁宮崎支部に即時抗告しましたが、一年後出された決定は、「どのような事象でも原子炉施設から放射性物質が放出されることのない安全性を確保することは、少なくとも現在の科学技術水準では不可能である。わが国の社会がどの程度の危険性であれば容認するかは社会通念を基準として判断するほかない」という信じられないものでした。

安全性を確保することが不可能な原発がどの程度の危険性であれば稼働を容認するかは社会が決めるしかないという、本当に無責任な決定でした。社会通念を基準とし判断するのであれば、メディア各社の世論調査で常に原発反対が賛成を上回っている事を、裁判所はどう判断するのでしょうか。裁判所にとっての社会通念とは、住民ではなく、政財界の社会通念という事でしょうか。あの福島の原発事故から何を学んだのだろう。

今も「原子力緊急事態宣言」発令中です。

フクシマ事故は、今生きている人間すべてがいなくなるほどの年数が経っても収束はしないとされています。原発事故は、人間と自然が共存していた里山・川・海・空、そして生きものたち、その全てを被ばくさせてしまいました。悔やんでも、悔やんでも、悔やみきれない。もう二度と、原発事故は起こしてはいけません。

(3)

熊本はこれまで、地震の起こりにくいところだと言われていました。現在の「日本郵便株式会社 九州支店」旧九州郵政局は、熊本市中央区にあります。旧九州郵政局を熊本にもってきた理由は、その為だと聞いたことがあります。しかし、3年前、その熊本で九州地方では初の震度7の大地震が発生しました。世界の大地震の20%は日本で発生しています。地震大国の日本は、いつどこで大地震が起きるかわかりません。熊本地震の震源地がずれていたらと思うと、本当に恐ろしかったです。

(4)

私は、安定ヨウ素剤の学習会を各地で開いています。

緊急の事態が起きた時、原子炉施設から放出される放射性物質による内部被ばくを防ぐことができるのは、安定ヨウ素剤服用による放射性ヨウ素だけです。チェルノブイリ原発事故が起きた時、国民にヨウ素剤を配布したポーランドでは小児甲状腺疾患の患者がほとんど出ませんでした。このことをたくさんの方に知ってもらい、安定ヨウ素剤がいかに必要なものかを理解してもらわねばなりません。原発再稼働を容認しているのでも、諦めているからでもありません。原発は稼働してなくても、そこにあるだけで危険だからです。稼働中ならその何倍も危険です。

行き場のない使用済み核燃料は、玄海原発でも 2021 年度には貯蔵プールの容量の9割を超える試算が示されています。玄海で大地震が起きたら、どうなるでしょう。

(5)

国内に111ある活火山のうち、九州には、17もの活火山が集まっています。阿蘇山、霧島山、桜島、口永良部島は、今も活発に活動しています。九州の火山が活発なのは、それぞれの火山が「日常的な」活動を繰り返しているからだそうです。

巨大噴火を起こすカルデラ火山は、日本列島に 10 個程度あり、その半数が九州とその近海に位置しています。阿蘇・始良・阿多・加久藤・鬼界。この巨大カルデラのどこでいつ噴火が起きてもおかしくない状況にあると言われています。そのどこかが噴火した場合、関西でも 50 cm、首都圏で 20 cm、東北地方でも 10 cm の火山灰が降り積もる。これは決して「脅し」ではないと専門家は語っています。

鹿児島では桜島の日常の噴火で、降灰の厚さ 0.5 mm 以下でも市電が脱線した事があり、JR も電車の位置情報入手ができず信号の誤作動の可能性があるので、運転を見合わせます。この何百倍、何千倍もの降灰があればどのような事が起こるか、想像はつくと思います。桜島の大正噴火で桜島と大隅半島は陸続きとなり、その際の降灰で3mの鳥居が2mも埋没してしまった神社が「爆発の猛威を語りつぐ鳥居」として桜島には残されています。

地震・火山噴火・台風・豪雨など自然災害がいつ起きるかわからないこの国で、命にかかわる事故となる原発は、一日も早く止め、廃炉作業に取り掛かって欲しいです。

今日、この場にいる全ての方が、「原発は安全ではない」と思っているはずで。

風・太陽・地熱。

この地球の恵みを利用した電気を使って、暮らしていきませんか。原発で働く被ばく労働者のいない社会で、暮らしていきませんか。そんな社会が一日も早く来ることを願っています。